

B108		考古学研究	
英名科目名	Study of Archaeology I		
大学名	京都橘大学		
連絡先	学務第1課 TEL: 075-574-4324 FAX: 075-574-4134		
担当教員	一瀬 和夫 (文学部歴史遺産学科教授)		
開講期間	2021年04月08日(木)～2021年07月29日(木) 3講時 13時20分～15時00分(毎週木曜日)		
開講形態	前期・春学期	開講曜日・講時	木曜日 3講時
単位数	2	履修年次	2回生以上
会場	科目開設校キャンパス		
授業定員			
単位互換生定員	10	京カレッジ生定員	10
試験・評価方法	授業中課題(40%)、授業中発表等(20%)、レポート(10%)、参加度(30%)		
超過時の選考方法	書類選考		
受講料	科目等履修生: 32,000円		
別途負担費用			
その他特記事項	<p><b>【教室情報】</b> 決定次第、「お知らせ」へ掲示します。不明な点があれば連絡先まで問い合わせてください。</p> <p><b>【準備学習】</b> 発掘調査の現地説明会などに参加、新聞・テレビ報道を気にかける。</p> <p><b>【課題に対するフィードバック】</b> 逐次行う。</p> <p><b>【履修上の注意点】</b> 発掘現場でのマナーを身につける。</p>		
パッケージ科目			
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
<p><b>【テーマ】</b> 考古学コンテキストの過去を読み取り、活用する。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b> 社会と考古学との関わりあいの中で根本的な考古学の方法論を探り、その一般法則性と概念的变化を理解する。そして、考古学を自己の創造へと応用するために備える。</p> <p><b>【授業の概要】</b> 考古学のもつ多様性をまず理解し、多角的な方法論と理論展開を知る。そして、具体例をゲストをまじえ検討しつつ、フィールドに向き今後の考古学のあり方を考える。</p> <p><b>【教育目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得</li> <li>・知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成</li> <li>・異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成</li> <li>・物事を論理的に分析する能力の養成</li> <li>・文化遺産を活用できる能力をもつことで社会を創造しようとする意欲を身につける</li> <li>・文化遺産の取扱や保存管理の知識をもち、研究に高めるための技術と方法を修得する</li> <li>・課題を設定し、資料を集め、観察、分析、考察を行う手順を修得する能力を高める</li> </ul>			
講義スケジュール			
<p>第01回 考古学の枠組み 過去に何がおこったか</p> <p>第02回 考古学の枠組み 考古学の目的と方法</p> <p>第03回 状況 発掘とは</p> <p>第04回 状況 分布と予備調査、発掘の手続き</p> <p>第05回 状況 発掘と整理</p> <p>第06回 型式と層位、共存 層位と文化面、異教時代の考古学(北欧)</p>			

第07回 型式と層位、共存 型式学と編年研究(北欧と北米)  
 第08回 型式と層位、共存 相対年代と絶対年代の間  
 第09回 型式と層位、共存 共存資料と年代(日本)  
 第10回 考古学の文化解釈(北米)と考古学の歴史解釈(欧)  
 第11回 発掘現場の見学(学外)  
 第12回 パブリック・アーケオロジ(欧米)  
 第13回 考古学の活用と現代(日本)  
 第14回 これからの考古学

教科書 『考古学の研究法』一瀬和夫 学生社 2016

参考書